

令和3年度 事業報告書

当会が令和3年4月1日から令和4年3月31日までに実施した事業についてご報告いたします。潤いのある地域環境づくりに向けて、一般市民や行政の方々と共に、桜の名所づくりや花のまちづくりなどの事業を展開いたしました。

(1) 桜苗木の生産・配布による桜の名所づくりや桜苗木の受託生産と育苗、花や緑を活かした花のまちづくりなどの推進

1) 桜の名所づくり

～桜苗木の生産と配布～

美しく潤いのある地域環境づくりの推進を目的に、桜苗木の生産と配布を継続し、地元行政や地域住民と一体となった新しい桜の名所づくりを進めました。特に、桜苗木の配布に当っては、植栽面積や植栽間隔が充分確保されているか、植栽後の維持や管理体制が明確になっているか、などについて確認したうえで実施しました。

～さくらコンシェルジュ～

新しい桜の名所をつくりたい、自分達で植栽した桜を健全に育て新しい名所にしたい、あるいは既存の桜の名所を守り後世に伝えたい、といった地域住民団体等の要望に積極的に応えるため、当会研究員を計画的に現地へ派遣しました。埼玉県久喜市、千葉県鋸南町、群馬県高崎市において、桜の名所の創成や桜の育成・再生・保全活動を住民団体の皆さんと一緒に展開しました。

～桜を通じた災害復興支援～

桜を通じた災害復興支援は11年目となりました。東日本大震災の被災地である宮城県には1年生苗木50本を無償提供しました。これにより被災地にお届けした桜の苗木は累計で7,096本となりました。

宮城県名取市では、那智が丘桜プロジェクトが進めている桜の名所づくりを支援しました。今年度は剪定作業の重要性を指導し、当初の生育環境が変化した桜については将来の樹形を考慮して早めの剪定を実施しました。

宮城県女川町では、メモリアル公園に隣接する緑地帯に‘八重紅枝垂’33本を住民がボランティアで植栽しました。また、当会の研究員が「桜まもりびと養成講座」で講義しました。座学や作業はポイント制として、保有ポイントに応じて参加者にプレゼントを配布するなど工夫を凝らして市民参加を促しました。

2) 桜苗木の受託生産と育苗

地方自治体、団体や個人等から委託を受けて、その地域に由来のある桜の苗木を接木により生産・育苗し、貴重な桜の伝承を支援するとともに桜の名所づくりを推進しました。

さくら市立氏家小学校（栃木県さくら市）からは、「大志桜」と命名された‘染井吉野’の後継樹育成を受託しました。2021年9月に接木を実施し、記憶に残る桜の後継樹を育成しています。

東京都大島町からは、極早咲きの‘夢待桜’の苗木50本を受託しました。2021年9月に100本の接木を実施し、2022年度の納品に向けて育成中です。

国立遺伝学研究所（静岡県三島市）は約250品種の桜を維持・保存しています。当会は強健な実生台木を用いた後継樹の苗木育成を通して当研究所を支援しています。今年度は34品種を納品し、2012年からの累計本数は約300本に達しました。

3) 花のまちづくり

花や緑を活かした地域環境づくりに関する委託を受けて、地域の美しい環境づくりへの提言を行いました。

山口県上関町からは、花咲く海の町・上関推進委託事業を継続して受託しました。‘河津桜’と水仙をコラボ植樹した城山歴史公園は立派な観光資源となりました。一方、メンバーの高齢化で住民花壇の維持が困難になってきたため、身の回り花壇としてコンテナによる花飾りを始めました。多年草を活用する予定で、乾燥に強く温暖な気候に適したゼラニウムを町内に配布するため、町職員を対象に植栽を指導しました。

(2) 桜の名所づくりや花のまちづくりに関する講師派遣や講座・シンポジウム等の開催

1) 講師派遣

地方自治体や住民団体等が開催する講演や勉強会に研究員を講師として派遣しました。

桜に関する活動としては、造幣局さいたま支局（埼玉県）での「桜の現況と年間管理」、金刀比羅宮（香川県）での「植栽地のアドバイス」、神栖市役所（千葉県）での「神之池緑地公園の桜の現状確認」など、延べ55回・1,265人を対象に桜の維持管理や保全および接木方法などについて講義や指導を行いました。

また、花のまちづくりに関する依頼にも研究員を派遣し、延べ4回・255人を対象に花壇づくりや花の活かし方などについて指導しました。

2) 桜の保全・管理に関する普及啓発

～サクラ保全管理講座～

桜の樹勢回復の方法や病虫害対策などの技術的・科学的分野と、桜に関する文化的・社会的な分野についての講座を第 19 回サクラ保全管理講座として 11 月 25 日に大阪市の国民会館で開催しました。

今回は、「吉野山保勝会と地域の取り組み」を（公財）吉野山保勝会／副理事長：福井良盟氏に、「西行の歌 ‘ねがわくは花のしたにて春死なんその如月の望月の頃’」を神戸大学／名誉教授：木下資一氏に、「地域の桜を護り、育て、伝える」を（株）花栄／代表取締役・樹木医：中村裕三氏にそれぞれ講義していただきました。

会場には樹木医や桜の愛好家など 14 名が参加したほか、147 名が Web 配信で受講しました。

～全国さくらシンポジウム～

第 40 回全国さくらシンポジウムを 2021 年 4 月 22 日、23 日に岩手県北上市で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から止む無く中止となりました。

また、第 41 回全国さくらシンポジウムを 2022 年 3 月 24 日、25 日に山口県岩国市で開催しました。大会テーマは「未来へつづけ 五橋とさくら」。式典には約 300 名が参加し、地元の錦帯橋さくら守の会および当会の桜の名所づくりアドバイザー：中村裕三氏による活動事例の報告がありました。翌日の現地見学会では、錦帯橋周辺、岩国城、吉香公園や宇野千代生家などで、「薄墨桜」や「雨情枝垂」などの岩国を代表する桜を見学しました。

～学び舎の桜プロジェクト～桜を知ろう、守ろう、救おう～

学校の校庭に植栽されている桜に興味関心を持ってもらい、桜授業や樹勢の衰えた桜を助ける活動を実施しました。

2015 年から実施している栃木県立小山北桜高等学校では、小山市思川桜里親協議会の「思川」育苗活動の一環として、挿し木増殖した桜を植栽し育成しています。今年度は食品衛生科の 3 年生 14 名に整枝や剪定を指導しました。同時に、苗木は年数の違いで整枝方法が違うことも教えました。

茨城県日立市では、市内の小学校 10 校で桜授業を実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できたのは 3 校に留まりました。

東京都品川区立第 4 日野小学校では、校舎の建て替えに伴って伐採される「染井吉野」の後継樹を育成する目的で、3 年生 82 人に接木を指導しました。作業のチェックシートやふりかえりシートを作成し、児童の理解度が見えるように工夫しました。

3) 花のまちづくりの普及啓発

～全国花のまちづくりコンクールの実施～

第 31 回全国花のまちづくりコンクールの事務局として、コンクールの質的充実を図ると同時に効率的な運営に努めました。

今回の応募総数は 1,031 件で、大臣賞を始め 105 件が表彰されました。花のまちづくり大賞では、農林水産大臣賞に檜原ゆうあい会（山口県下関市）と宮野裕子（富山県砺波市）、国土交通大臣賞に小松市（石川県）とふかや緑の王国ボランティア（埼玉県深谷市）、文部科学大臣賞にみなべ町立高城小学校（和歌山県みなべ町）がそれぞれ選出されました。

また、優秀賞には小瀬戸花いっぱい会（静岡県静岡市）など 11 件が、奨励賞には本久自治会 絆・花の会（神奈川県相模原市）など 11 件が選ばれました。さらに入選が 73 件、努力賞が 5 件選出されました。

新設の特別賞では、入賞回数 10 回以上のゴールド賞が 3 件、入賞回数 5 回以上のシルバー賞が 26 件、合計 29 件が選出されました。

なお、表彰式は 10 月に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から止む無く中止となりました。

～花のまちづくり優秀事例発表会～

全国花のまちづくりコンクール表彰式の前日に開催している花のまちづくり優秀事例発表会も同様に中止となりました。その代替手段として、第 31 回全国花のまちづくりコンクールでの大臣賞受賞者の活動内容がわかる資料や動画をホームページで掲載して幅広く紹介しました。

～全国花のまちづくり地方大会～

地方での花のまちづくりの普及啓発を目的とした第 27 回全国花のまちづくり地方大会を 7 月 17 日、18 日に秋田県由利本荘市で開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から参加者を秋田県内在住者に限定したため、式典参加者は 207 名となりました。秋田県花いっぱい運動の会の事業紹介や、石脇緑を守る会および十文字環境美化を考える会による活動事例発表、さらに杉井志織氏による特別講演がありました。来場者にアンケートを実施したところ、事例発表や特別講演に好意的な意見が多く、「花のまちづくりに参加したい」との回答が 63%ありました。また、翌日の現地見学には 32 名が参加しました。

～「こまつの杜」（石川県小松市）での花育～

石川県小松市にあるこまつの杜において、コマツ OB/OG で結成された NPO 法人みどりのこまつスクスク会やわくわくコマツ館の職員がスタッフとしてお手伝いし、小松市内の幼稚園 2 ヶ所、保育園 2 ヶ所、計 4 ヶ所の園児約 80 名を対象に花育を実施しました。

研究員の指導の下、園児たちは種まきから鉢上げ、花壇づくりなどを春と秋に実施。1 年間（春まき・秋まき）を通しての活動のため、園児に植物の成長過程を教えることができます。子供達が自宅で種まき（果物の種など）をやりたがるなど、花育効果を実感できました。

4) 屋上緑化

都市部のヒートアイランド現象の緩和策として注目されているビル屋上の緑化について、コマツビル屋上庭園の維持管理を実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一般公開は中止せざるを得ませんでした。当屋上庭園がテレビ番組で取り上げられるなど、屋上緑化の先進事例として情報発信と普及啓発に努めました。

(3) 桜の品種特性や樹勢回復についての研究、組織培養による苗木生産の研究、桜の樹勢回復に関する調査研究と技術指導

1) 自主研究

～桜の品種特性に関する調査研究～

桜見本園で収集保存している 400 品種の桜について、品種特性の画像データ化と情報の蓄積を取りまとめ、ホームページで改定版「桜図鑑」として掲載しました。一般市民の桜に対する興味関心をより一層高めることが期待できます。

～桜の樹勢回復に関する試験研究～

結城農場の桜見本園の桜について、樹勢回復に関する試験研究を継続し、全国各地の桜の維持保全に活用できるよう技術力や知見を高めました。

～組織培養による桜苗木生産に関する試験研究～

組織培養を活用した桜苗木生産の事例を取りまとめ、今後の方針を検討しました。

2) 受託研究

～桜の樹勢回復に関する調査研究と技術指導～

桜の名所づくりや樹勢回復に関する事業の委託を自治体等から受けて調査研究を行い、桜の現状把握、病害虫の駆除、枯れ枝の剪定や施肥、桜老齢樹の樹勢回復、桜に

よるまちづくりなどの指導や提言を行いました。

- ・ 日立市（茨城県）・・・‘さくらのまちづくり’ 推進事業を実施
- ・ 藤岡市（群馬県）・・・三波川（サクラ）樹勢調査と応急処置
- ・ 富士吉田市（山梨県）・・・新倉山浅間公園の桜樹勢回復工事

会員活動の支援について

全国 27 ヶ所の地方会員組織のメンバーは、桜の名所づくりや桜の保護活動、花のまちづくり活動などを積極的に行っています。当会研究員は可能な限り現地に赴いて技術的なサポートを実施しました。活動報告と情報交換を目的として例年開催している地方会員組織代表者会議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

期末会員数（令和4年3月31日現在）

法人会員：267 個人会員：1,399 合計：1,666

以上